



THE ONE MAKE RACE FESTIVAL 2023 FUJI

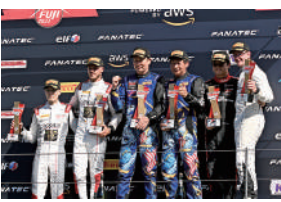
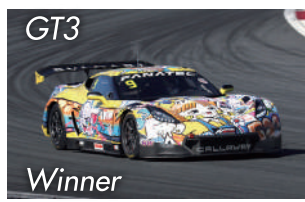
17-18.June.2023



全6大会12戦で争われるGTワールドチャレンジ・アジアは、うち4大会がジャパンカップとして日本で開催され、今大会がその初戦。決勝レースは1時間で、原則2名のドライバーで競われる。スタートしてから25分経過後、10分のうちにピットストップが義務づけられ、ピット入口から出口まで90秒以上要さなくてはならない。

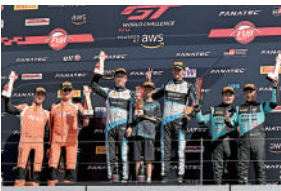
レース1は予選アタックと、決勝スタートをジェントルマンドライバーが担当。Q1では#87 R&B RacingのLeo YEがトップながら、ペナルティポイントの累積で5グリッド降格に。#29 Phantom Pro RacingのKan LINGが繰り上がってポールポジションを獲得。そして2番手#9 BINGO Racingの武井真司がつけた。4台が参戦のGT4クラスでは、#50 YZ RACING with BMW Team Studieの加納政樹がトップだった。

決勝では#29 LINGがさっそく逃げるも、ダンロップコーナーでアクシデントが発生し、3周目からセーフティカー (SC)が2周にわたって導入される。SCが戻された後も#29 LINGはトップを守っていたのに対し、#9武井は4番手に退いていたが、3秒と離されていなかったことが、やがて福音をもたらすことに。13周目、#9飯田章への早めの交代が功を奏し、トップに浮上。これに#47D'station Racingの藤井誠暢が迫るも、ピットストップ時間が0.002秒足りず、1秒のペナルティストップを課せられて万事休す。#9 BINGO Racingが初優勝。「僕のレース人生の中で、いちばん嬉しい優勝」と#9武井。GT4クラスでは#50 YZ RACING with BMW Team Studieの加納、そして織戸学が最後までポジションを守り抜いた。「もう完璧でしたね!」と織戸。



RESULT リザルト Pro-Am

Rank No.	Name
1	9 BINGO Racing
2	911 AAS Motorsport by Absolute Racing
3	4 R&B Racing
4	2 Climax Racing
5	37 Craft-Bamboo Racing
6	333 Phantom Pro Racing



RESULT リザルト Am

Rank No.	Name
1	3 Climax Racing
2	51 AMAC Motorsport
3	7 Comet Racing
4	360 RUNUP SPORTS
5	55 Team Uematsu



RESULT リザルト GT4 Silver-Am

Rank No.	Name
1	50 YZ RACING with BMW Team Studie
2	71 Akilland Racing



RESULT リザルト GT4 Am

Rank No.	Name
1	718 Checkshop Caymania Racing
2	97 K-Tunes Racing

Fanatec GT World Challenge Asia
powered by AWS
Round 4



プロドライバーが予選、決勝スタートを担当するレース2は、想像をはるかに超える展開となった。Q2トップはマカオGPで優勝経験も持つ、#37 Craft-Bamboo RacingのDaniel JUNCADELLA。決勝ではスタート直後のTGRコーナーで接触されて止まった車両があり、いきなりSCが導入される。その後も、TGRコーナー手前で接触があり、再びSCが止まった2台のうち、1台はレース1を制した#9 BINGO Racingだった。その間もトップを守り続けていた#37 JUNCADELLAだったが、SCラン解除後に、追突されて無念のリタイアに。

これにより、トップには#911 AAS Motorsport by Absolute RacingのAlessio

PICARIELLOがトップに立つも、代わったばかりのVutthikorn INTHRAPHUVASAKが、やはり追突されて順位を落とす。トップにKCMGのPaul IPが浮上するも、ラスト3周で#47 D'station Racingの星野敏が逆転。藤井とともにジャパンカップ通算3勝目を挙げたかと思われたが……。レース終了から、実に8時間後に正式結果が出され、そこには大量のペナルティが。その中に#47 D'station Racingも含まれ、走路外走行の追い抜きにより、7位に降格。#88 Triple Eight JMRのAB IBRAHIMとLuca STOLZが繰り上がって優勝を飾り、GT4クラスでは今大会が初参戦となる、#718 Checkshop Caymania Racingの大家直彦と小林翔が、逆転で優勝を挙げている。



RESULT リザルト Overall

Rank No.	Name
1	88 Triple Eight JMR
2	8 EBM
3	4 R&B Racing
4	5 PLUS with BMW Team Studie
5	11 Audi Sport Asia Team Absolute
6	47 D'station Racing



RESULT リザルト Am

Rank No.	Name
1	7 Comet Racing
2	55 Team Uematsu
3	51 AMAC Motorsport
4	360 RUNUP SPORTS
5	3 Climax Racing



RESULT リザルト Silver-Am

Rank No.	Name
1	71 Akiland Racing



RESULT リザルト GT4 Am

Rank No.	Name
1	718 Checkshop Caymania Racing
2	97 K-Tunes Racing

FCR-Vitz Round.2



全3戦で争われるFCR-Vitzは、エントリーが15台に増え、今回はそれぞれ単独での開催に。予選で終始トップは開幕戦ウィナーの#50三浦康二。序盤は単独でのアタックながら、「スリップストリーム使わないと危ないなど、そういう空気を感じたので(笑)」と、いったんクールダウンしながら位置取りを整えると、さらにタイムアップを果たしていた。早々に走行を切り上げていたら、最後の最後に#713白井涼の逆転を許していたから、的確な判断だった。

「決勝は白井くんとバトルになると思うので、楽しいレースができるといいですね」と、加えて語っていた#50三浦。フロントローに並んだふたりは、揃って好スタートを決め、1周目を終えた段階で早くもトップを一騎打ちで争うこととなる。中盤までは、まるで互角。3周目にはファステストラップとなる2分18秒089を、ふたりで同時に出したほど！しかし、折り返しの5周目あたりから、#713白井のタイムが伸びなくなり、徐々に#50三浦が逃げていく。「レース前半で強いところ、弱いところ分かったので、後半たぶん僕の方が有利だと思ったんです。タイヤを労わりながら、弱いところだけ守って、後半プッシュできたので。狙いどおりの展開になりました」と語る#50三浦に対し、「途中から直線が伸びなくなっちゃって。ポールに当たっちゃったので、そこに原因が……」と#713白井。最後は6秒6の差をつけられていた。3位は#46ジェネリック内田が獲得。なお、2連勝の#50三浦は最終戦を待たず、チャンピオンを確定。「残りのレースも全力で勝ちに行きます」とも語った。

RESULT リザルト FCR-Vitz

Rank No.	Name
1	50 三浦 康司
2	713 白井 涼
3	46 ジェネリック内田
4	393 大野 秀昭
5	24 山西 良憲
6	7 鈴木 陵太



FCR-86BRZ RACE Round 2



開幕戦で激しいトップ争いを繰り広げた、#312松本晴彦と#338角谷昌紀が今回もフロントローに。予選で先にトップに立った#312松本は1周でアタックを切り上げたのに対し、#338角谷はなおも続けてアタックしたことが功を奏し、ポールポジションを獲得する。「ずっと単独でした。前は詰まっちゃったんで、とにかく単独で走りたいと思っていて。前が詰まることもなかったので、とにかくタイヤがタレるか関係なく、全開で走ろうと。気持ちよく走れてトップタイムが出せました。今回も逃げられそうもないですが、頑張って逃げたいと思います」と#338角谷。3番手には#406マン太郎が、そして4番手には#23 YOSHIKIがつけていた。

決勝では#312松本が気迫を見せた。まずはスタート直後のTGRコーナーで、そしてコココーラコーナーで、さらにダンロップコーナーで#338角谷を攻め立てる。そのつどガードを固めた#338角谷ながら、その間に接触も。2周目までは#338角谷に食らいついていた#312松本は、以降は逆に#23 YOSHIKIに追い立てられてしまう。ようやく#23 YOSHIKIを振り切った時には、もう#338角谷は2秒以上先に……。

逃げ切って今季初優勝の#338角谷は「苦手なスタートをミスっちゃって。それでちょっと当たっちゃったのは、申し訳なく感じています。後ろは見ないようにしていました、どうしても気になっちゃうので。自分のベストを尽くせるような走りのできたので、最終戦も勝ってチャンピオン獲れたらいいな、と思っています」と。これで#312松本とは、同ポイントで並んだ。

RESULT リザルト FCR-86BRZ RACE

Rank No.	Name
1	338 角谷 昌紀
2	312 松本 晴彦
3	23 YOSHIKI
4	101 伊藤 幸佑
5	406 マン太郎
6	33 米田 利唯



Porcsh Sprint Challenge Japan Round 5 & 6



ここまで富士、SUGOで4戦連続ポール・トゥ・ウィンの#90呉良亮が、またしてもベストタイム、セカンドベストタイムともトップでWポールを獲得。前半に勝負をかけた#90呉に対し、少しでも路面状態が向上するであろう、後半に#1 KEN YAMAMOTOは勝負をかけるも、あと一步及ばず。

レース1ではローリングスタートの後、#90呉は慎重に1コーナーに飛び込んでトップを守るも、ややダッシュの鈍った#1 YAMAMOTOは、予選3番手の高木啓一郎の先行を許していた。2周目には#1 YAMAMOTOが2番手に順位を戻すも、その時すでに#90呉は2秒先。しばらくは差が広がるのを防いでいた#1 YAMAMOTOだったが、中盤以降は#90呉の逃げ切りを許してしまう。「10秒離せませんでした。もうちょい離せるかと思ったんですけど。プッシュはけっこうしたつもりでしたが、YAMAMOTO選手との差はどんどん詰まっている気がします。後半は僕の方が少し速かったようですが」と#90呉。

GT3-IIクラスも#26橋村剛が5連勝。予選の総合5番手から、ふたつ順位を落としこそしたが、パワーに勝るGT3-I勢と互角の戦いを繰り広げた。「富士は直線が長いので、抜かれたら抜き返せないで、必死にブロックさせていた。でも、楽しいレースでしたよ」と#26橋村。

GT4クラスでは「難しいセットや今までやっていないことを試して、車の変化などを、また新しく吸収することができたので、それは大きかったと思います」という#71平安山良馬が、#51山口達雄の追撃をかわし、やはり5連勝を飾っている。



RESULT リザルト GT3-I

Rank No.	Name
1	90 呉良亮
2	1 KEN YAMAMOTO
3	9 小林 賢二
4	16 岸本 裕之
5	44 HISATEA
6	84 Masa TAGA



RESULT リザルト GT3-II

Rank No.	Name
1	26 橋村 剛
2	88 ヤマダ ヒロシ



RESULT リザルト GT4

Rank No.	Name
1	71 平安山 良馬
2	51 山口 達雄
3	86 太田 和輝

レース2では無難なスタートを切って、#90呉に続いた#1 YAMAMOTOだったが、2周目に車両トラブルにより突如ピットイン。これで3周目には、後続に10秒以上の差をつけた#90呉は、そのまま逃げ続けた。7周目には22秒差としたが、GRスーブラコーナーで接触し、止まった車両があったことからSCが導入され、そのままチェッカーが振られることに。山本のリタイヤで6連勝の#90呉は、鈴鹿での最終大会を待たず、チャンピオンを確定。「決まりなんですけど、なんか微妙で実感湧きません。最後の鈴鹿で全部勝ったら、その時やっ

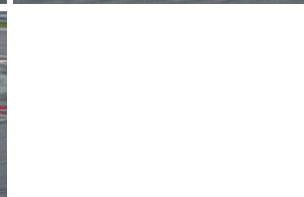
嬉しいとか、感じるんでしょうね」と#90呉。

2位は#84 Masa TAGA。続いてゴールの2選手がSC中の追い越しでペナルティを受けたため、#9小林賢二が繰り上がって2戦連続で表彰台に上がった。「タイヤがきつくて、なんとか耐えたレースでした」と語る#26橋村も、これでGT3-IIクラス6連勝。「また試しました、別なことを。しんどかったですけど、どうなったっていうのを、からだで理解できてよかったです。もっと離れたかったんですが……」と語る#71平安山も、GT4クラスで6連勝となった。



RESULT リザルト GT3-I

Rank No.	Name
1	90 呉良亮
2	84 Masa TAGA
3	9 小林 賢二
4	76 高木 啓一郎
5	15 神取 彦一郎
6	77 MUSASHI



RESULT リザルト GT3-II

Rank No.	Name
1	26 橋村 剛
2	88 ヤマダ ヒロシ



RESULT リザルト GT4

Rank No.	Name
1	71 平安山 良馬
2	51 山口 達雄
3	86 太田 和輝

NEOHISTRIC/AE111

Round 1



昨年までNA1600を含み、混走ながらそれぞれ表彰されていた6クラスを、AE111のみ独立させ、新たにネオヒストリックと改称。こうなると俄然有利なのが、ストレートパフォーマンスに勝るシルビアの#15山崎博明だ。「申し訳ないとは思いますが、やっとポールからスタートできるので」と、複雑な表情を見せていた。決勝でもスリックタイヤと軽さで分のある、NA1600の#64矢島篤が必死の抵抗を見せ、特にセクター 2で差を詰めるも、ストレートで引き離されてしまう。「最後は僕のタイヤもタレてきて、向こうも気合入っていたと

思います。抜かれた方がドラマチックだったかな」と#15山崎は苦笑い。

総合4位はAE111優勝の#98小松響。#47ジェネリック内田を最後まで寄せつけず。「誰にも抜かれずに終われました。途中ミスもありましたが、最後はなんとか取り戻して、普通に走れたので良かったです。今年からFIA-F4にも出ているので、今回の経験をそちらにも活かしていければ、と思っています」と#98小松。実はこの車、23年前に父親で、今もS耐で活躍する一臣氏も乗っていた個体。オーナーはもちろん変わっているが、歴史の重みを感じさせた。



RESULT リザルト NEOHISTRIC

Rank No.	Name
1	15 山崎 浩明
2	64 矢島 篤
3	37 秋元 優範
4	240 山口 崇
5	78 谷田 伸行
6	40 柳本 文彦



RESULT リザルト AE111

Rank No.	Name
1	98 小松 響
2	47 ジェネリック内田
3	18 塩岡 雅敏
4	13 金崎 権
5	72 高橋 ノボル
6	63 安田 知宏

Super FJ



筑波・富士シリーズの第4戦ながら、開幕3連勝の小村明生は出場せず。代わって気を吐いたのが、普段は鈴鹿シリーズを戦う#55板倉慎哉だった。予選では最後の最後に#15武者利仁の逆転を許すも、アペラージュでは圧倒的に優っており、決勝をより有利に戦うのでは、というのがもっぱらの予想だった。

しかし、「気負いすぎてストールさせてしまいました」と#55板倉はスタートに出遅れし。これで一気に有利になったのが、ポールシッターの#15武者。最後まで誰にもプレッシャーをかけられぬまま、10周を走り切って初優勝を

飾った。「ずっと2位とか3位だったので、いちばん高いところに立てて、めっちゃ嬉しいです。今回勝てたのはデカイので、また次の筑波、富士でスキルアップできたことを試してみたいと思います」と#15武者。

一方、#55板倉は最後尾に落ちながらも激しい追い上げを見せ、6周目には予選を上回るファステストラップも樹立。8周目にはTGRコーナーで1台、グリーンファイト100Rでも1台を抜いて、ついに2位に！ 最後はわずかながらも#15武者との差も詰めただけに、スタートのストールがなかったら！



RESULT リザルト Super FJ

Rank No.	Name
1	15 武者 利仁
2	55 板倉 慎哉
3	78 小田部 憲幸
4	41 奥本 隼士
5	8 野村 大樹
6	3 秋山 健也